

平成27年度エネルギー対策特別会計委託事業

地域住民の意識を踏まえた双方向の意見交換会の実施（広聴・広報事業）

委託業務成果報告書

平成28年4月

（一財）日本原子力文化財団

本報告書は、文部科学省の平成27年度エネルギー対策特別会計委託事業による委託業務として、一般財団法人日本原子力文化財団が実施した平成27年度「地域住民の意識を踏まえた双方向の意見交換会の実施（広聴・広報事業）」の成果を取りまとめたものです。

目 次

I. 委託業務の内容.....	1
1. 委託業務の題目.....	1
2. 実施機関.....	1
3. 委託業務の目的.....	1
4. 委託業務についての計画変更.....	1
5. 当該年度における成果の目標及び業務の方法.....	2
6. 委託業務実施期間.....	12
II. 業務実施時期.....	12

I. 委託業務の内容

1. 委託業務の題目

「地域住民の意識を踏まえた双方向の意見交換会の実施（広聴・広報事業）」

2. 実施機関

住 所 東京都港区芝浦二丁目3番31号

機関名 一般財団法人日本原子力文化財団

3. 委託業務の目的

本業務においては、将来のエネルギーの安定供給や原子力発電施設等から生じる放射性廃棄物の低減等を目的として核燃料サイクルの研究開発を推進しており、これに基づき国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下、「原子力機構」とする。）が福井県敦賀市に「もんじゅ」を設置し、研究開発を実施している。

当該研究開発を推進する立場として、特にもんじゅが立地している地域の住民に対して、新しいエネルギー基本計画やもんじゅの研究開発のあり方・現状について適切に情報を提供しつつ、当該地域の住民が原子力や「もんじゅ」に関して知りたい情報をアンケート調査等により把握するとともに、その他地域の調査結果も考慮し、立地地域に対するきめ細やかな情報提供等を行い、地域住民の知識の普及等を図ることを目的とした。

4. 委託業務についての計画変更

以下のとおり、当初の計画を変更し業務を行った。

平成27年11月13日に原子力規制委員会から「もんじゅ」の運営主体である原子力機構について、出力運転を安全に行う主体として必要な資質を有しておらず、原子力機構に代わる運営主体と特定すべき旨の勧告が発出されたことにより、今年度予定していた広報を地域住民へ受け入れてもらうことは困難な状況となったことを踏まえ、広報手法と内容を絞って今年度の事業を行うことが必要と判断し、以下のとおり、計画を変更した。

<もんじゅ広聴・広報事業 変更計画一覧>

当初計画	変更計画	備考
事前アンケート	実施済	
中間評価委員会	実施済	
意見交換会×3回	意見交換会×1	勧告発出前に実施した1回（福井市）のみ。 残2回（敦賀市／大学等）については、勧告を受け、実施困難と判断。
参加総数200名程度	参加総数50名程度	<参加総数200名内訳> ・福井：敦賀＝100名：100名 <福井での内訳> ・タイアップイベント：大学での実施＝50名：50名を予定していた。 タイアップイベント→一般住民対象、 大学での実施→次世代層＋一般住民対象

事後評価委員会	実施	
---------	----	--

5. 当該年度における成果の目標及び業務の方法

(1) アンケート調査の実施

意見交換会の開催に先立ち、福井市、敦賀市内において地域住民対象に合計 769 件のアンケート調査を実施し集計・分析を行った。その結果、地域住民の関心がある、意見交換会時に取り上げて欲しい内容は、「自然災害における安全対策について 60.1%」「期待される成果 35.4%」「今後の予定 30.4%」についてであった。

(2) 意見交換会の開催

参加者と双方向の意見交換となるよう地域性等を鑑み、集客が見込める地域のイベントとタイアップにより、福井市で意見交換会を実施した（1回）。

(イ) 意見交換会形式

原子カフォーラム in 北陸技術交流テクノフェア 2015

テーマ：もんじゅについて考えよう ～安全対策や新エネルギー基本計画の位置づけ～

主催：文部科学省

協賛：技術交流テクノフェア実行委員会

協力：国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構

日時：10月9日（金）13:00～15:00

場所：福井県産業会館「本館2階大ホール」（福井県福井市下六条103）

参加者：約80名

プログラム：

- ・主催者挨拶 文部科学省もんじゅ改革監 加藤 孝男氏
- ・「もんじゅ」インフォ「もんじゅの現状と安全対策の取組みについて」
日本原子力研究開発機構もんじゅ運営計画・研究開発センター長
家田 芳明氏

（内容）最初に保守管理上の不備の問題に触れ、もんじゅの現状として「もんじゅ」改革を1年半実施し、保安措置命令に対する報告書を提出したが、保安検査等でいくつかの指摘を受け、また、安全機能の重要度分類に関する報告の徴収が求められ、10月21日迄に原子力規制委員会に報告できるよう対応を進めていること等を説明。その他、「もんじゅ」の安全対策、安全確保の取組みの状況、今後の展開について等説明をした。

- ・基調講演「日本のエネルギー政策におけるもんじゅの位置づけと研究計画」

東北大学 名誉教授/(株)テムス研究所 代表取締役所長 北村 正晴氏

（内容）原子力政策にとって、社会との関係をどのようにしていくかは重要であると説明。原子力立地地域の住民と繰り返し少人数で対話をしてきて推進派と反

対派の専門家を交えた討論を行う場をつくり、原子力政策や技術と住民との合意点を探る活動をしてきたこと、そこで、事業者や学者は「原子力技術は安全です」と語り、地域住民は「安全を支える組織は大丈夫か、規制は機能しているのか、社会にとって本当に有用か」と広い視点から懸念し、食い違いがあることを学んだ。今、難しい立場であるからこそ、事業者や学者は、「技術」だけでなく「組織」「規制」「社会」の広い視野から説明が必要である。原子力機構は、自らの行動基準において、「安全確保の徹底」を第一としながら、「社会からの信頼」を掲げ、「社会とのコミュニケーション」「一人ひとりが社会の一員であることを自覚し、常に良き社会人として誠実に行動」とすると説明。信頼の再構築の第一歩は、「社会との対話」が不可欠である。対話に加え、高いモチベーションをもった能力ある組織であることをわかってもらうことが必要であるとの原子力機構が信頼を再構築するためには事業者をはじめ関係者の最大限の努力が必要であるとの内容であった。

・意見交換会

パネリスト 東北大学 名誉教授/(株)テムス研究所 代表取締役所長 北村 正晴氏
日本原子力研究開発機構 もんじゅ運営計画・研究開発センター長
家田 芳明氏

文部科学省もんじゅ改革監 加藤 孝男氏

コーディネーター フリーアナウンサー 堀内 くみ子氏

(内容)「もんじゅ」インフォや基調講演で紹介した内容等をきっかけに、「もんじゅ」の安全対策や今後の予定や取組みに関して、来場者に2色の色紙(赤/青)を渡して意識調査を実施し、来場者からの質問に回答しながら、意見交換を実施した。事前に参加者から収集した質問・意見等にパネリストが回答、ディスカッションを行い双方向のコミュニケーションを図った。当日回答できなかった場合アンケートに記入いただいた質問・意見等については、後日ホームページにQ&Aとして掲載した。





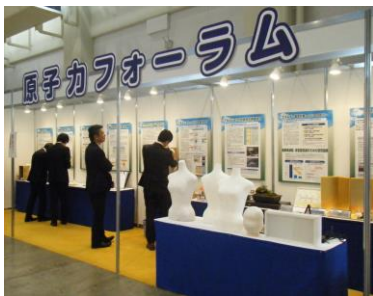
Q & Aのホームページ（一例）

(ロ) 展示ブース

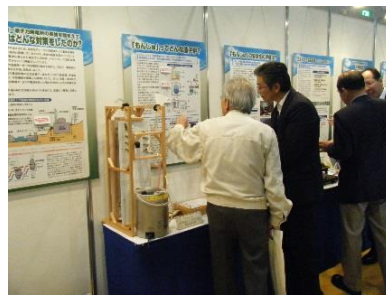
意見交換会（福井市）と同会場にて、同日に実施した。原子力機構及び専門家の説明員を配置し、来場者へ解説を行うとともに、来場者の意見・疑問等に対応した。

北陸技術交流テクノフェア2015 参加者：2日間 約370名（各日約185名）

（内容）「もんじゅ」・放射線等の説明パネル（全12枚）を一部クイズ形式にしてパネルをめくるタイプとタブレットPCを使ってのクイズ、もんじゅの自然循環による空気冷却の模擬実験装置、放射線計測・霧箱コーナー、原子力機構の技術開発を紹介する成果物等設置した。また、エネルギー基本計画やもんじゅの研究開発のあり方、原子力や「もんじゅ」に関して地域住民が知りたい情報、文部科学省が伝えたい情報等を取りまとめたリーフレットを設置し情報発信を行った。



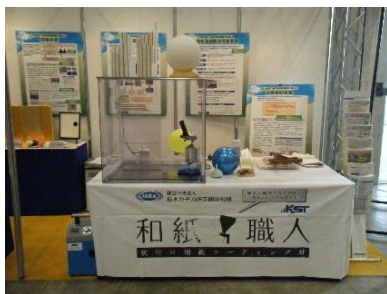
展示ブース（テクノフェア）



もんじゅの自然循環による
空気冷却の模擬実験装置



原子力機構による研究成果物



原子力機構による研究成果物
（吹付和紙）



エネルギー・放射線等の展示物



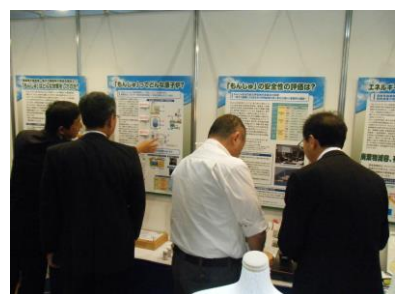
簡易放射線測定器説明



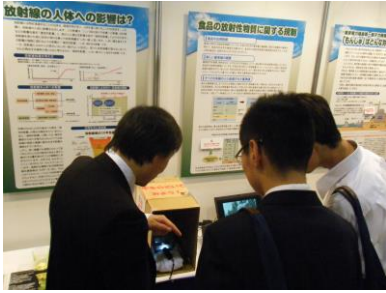
パネル展示説明



タブレットクイズ挑戦



原子力機構による研究成果物の説明



放射線の飛跡を観察する霧箱



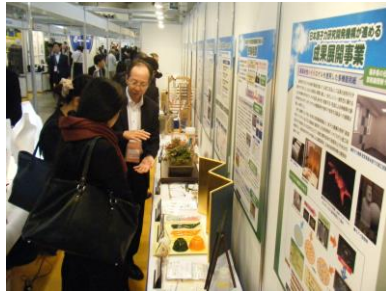
放射線に関する説明



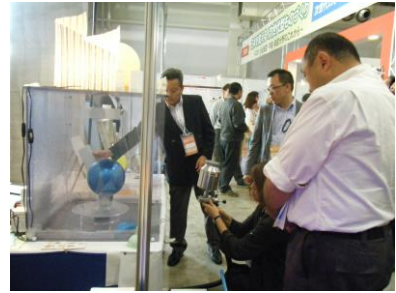
放射線に関する説明



アンケート記入



原子力機構の研究成果説明



吹付和紙実演

パネル内容（タイトル）：

1. 「もんじゅ」ってどんな原子炉？
 2. 東京電力福島第一原子力発電所の事故を踏まえて
「もんじゅ」はどんな対策をしたのか？
 3. 「もんじゅ」の安全性の評価は？
 4. エネルギー基本計画 ～もんじゅの位置づけ～
 5. 放射線と放射性物質 身の回りに存在しています
 6. 放射線の種類、単位と半減期
 7. 放射線の人体への影響は？
 8. 食品の放射性物質に関する規制
 9. 日本原子力研究開発機構が進める技術相談
 10. 日本原子力研究開発機構が進める技術課題解決促進事業
 11. 日本原子力研究開発機構が進める成果展開事業－1
 12. 日本原子力研究開発機構が進める成果展開事業－2
- ※A3 サイズ 放射線を体験しよう～測定器・霧箱～ 1枚

身の回りに存在しています

放射線と放射性物質 身の回りに存在しています

放射線は私たちの身の回りに存在しています。宇宙から、空気から、大地から、食べ物からも放射線は出ており、私たちは絶えず「放射線」を受けています。このように自然界に存在する放射線を「自然放射線」。エックス線などのように人工的につくられた放射線を「人工放射線」と呼びますが、性質に違いはありませんので、身体への影響は同じです。

放射線と放射性物質の違い

「放射線」は「放射性物質」と呼ばれる放射線を出す力を持った物質から出てくるエネルギーのことです。この「放射性物質」が「放射線」を出すのを「放射線」と呼びます。

放射線と放射線

放射線は電磁波（γ線）や粒子線（α線、β線）に分けられます。電磁波は赤外線や可視光線と同じ性質になります。粒子線はα（アルファ）線、β（ベータ）線、中性子線の3種類、電磁波はγ（ガンマ）線、X（エックス）線の2種類になります。それぞれの放射線は物を通り抜ける力に違いがあります。α線はHe（ヘリウム）の原子核で、紙一枚で止まってしまいます。β線はアルミニウムなどの薄い金属で止まります。γ線やX線は厚い鉛のような重い金属で止めることができます。

身の回りの放射性物質

身の回りに存在する「放射性物質」の代表例はカリウムです。「カリウム」は生物の必須元素の一つで、これがないと人間は生きていくことはできません。この「カリウム」には放射線を出さないカリウムと出すカリウムが存在し、放射線を出すカリウムは0.0117%程度の割合で含まれています。「カリウム」は食物など様々なものに含まれています。また、必須元素の一つであるため人体にも含まれています。その他にも、「食塩」「ウラン」などが自然界に存在します。

体内、食物中の自然放射性物質

自然界の放射性物質の種類と放射線量

放射線量 (μSv/h)	放射線量 (mSv/年)
宇宙線 (地上)	0.3
宇宙線 (飛行機)	0.4
自然放射線 (平均)	2.1
自然放射線 (最大)	0.20

体内の放射性物質の種類と放射線量

放射性物質	放射線量 (mSv/年)
カリウム	0.17
炭素	0.01
ラジウム	0.005
ポロニウム	0.005
ウラン	0.005
トリウム	0.005
プルトニウム	0.005
セシウム	0.005
ヨウ素	0.005
ストロンチウム	0.005
バリウム	0.005
鉛	0.005
ビスマス	0.005
タングステン	0.005
チタン	0.005
鉄	0.005
銅	0.005
亜鉛	0.005
コバルト	0.005
ニッケル	0.005
マンガン	0.005
カルシウム	0.005
マグネシウム	0.005
ナトリウム	0.005
塩素	0.005
リン	0.005
硫黄	0.005
酸素	0.005
窒素	0.005
水素	0.005

放射線の種類、単位と半減期

放射線の種類、単位と半減期

放射線の種類と透過力

放射線は大きく分けて、粒子線と電磁波の二つに分けることができます。粒子線はその名の通り、粒が飛んでいるイメージです。電磁波は赤外線や可視光線と同じ性質になります。粒子線はα（アルファ）線、β（ベータ）線、中性子線の3種類、電磁波はγ（ガンマ）線、X（エックス）線の2種類になります。それぞれの放射線は物を通り抜ける力に違いがあります。α線はHe（ヘリウム）の原子核で、紙一枚で止まってしまいます。β線はアルミニウムなどの薄い金属で止まります。γ線やX線は厚い鉛のような重い金属で止めることができます。

放射線の単位と半減期とは？

放射線などを表すために、Sv（シーベルト）、Gy（グレイ）、Bq（ベクレル）など様々な単位があります。「半減期」とは、ある放射性物質の量が半分になるまでにかかる時間を指します。「半減期」は放射性物質によって時間が違い、セシウム137では30年、ヨウ素131では8日になります。一方、体内に取り込まれた場合は、新陳代謝によって、セシウム137の場合1歳までは9日、8歳までは3日、30歳までは7日、ヨウ素131は初日で11日、5歳で23日、成人の場合8日と、放射性物質の種類によって、体内の放射性物質の量が半分になるまでにかかる時間が異なります。

放射線に関する単位

放射線	単位	説明
放射線量	ベクレル (Bq)	1秒間に放射線を出す原子核の数を表す単位
放射線量	グレイ (Gy)	放射線が物質に与えるエネルギーの量を表す単位
放射線量	シーベルト (Sv)	放射線が人体に与える健康被害のリスクを評価する単位
放射線量	マイクロシーベルト (μSv)	放射線が人体に与える健康被害のリスクを評価する単位

放射線の減り方

放射線の減り方は、放射線の種類によって異なります。α線は紙一枚で止まるので、減り方が最も速いです。β線は薄い金属で止まるので、減り方が中速です。γ線やX線は厚い鉛で止まるので、減り方が最も遅いです。

放射線の人体への影響は？

放射線の人体への影響は？

放射線は物を透過することが出来る、透過作用があり、人体を通り抜けることが出来ます。この際に、放射線が人体に影響を及ぼします。この影響は、リンパ球の減少や皮膚への影響、白内障などの影響を及ぼす「確率的影響」と、癌がんと遺伝的影響を及ぼす「確率的影響」に分けられます。放射線を受けた時に症状が現れる最も小さい放射線量を「しきい値」と言います。しきい値を超えてその影響が顕著に現れるような影響が、「確率的影響」（しきい値のある影響）です。一方、放射線によるがんの発症にはしきい値がないと想定し、受けた放射線量が増えるに従って、がんの発生する確率が高くなると考えられるのが、「確率的影響」（しきい値がないと想定する影響）です。

放射線防護の考え方

放射線防護の考え方として、放射線防護の3原則（正当化、最適化、制限）があります。

放射線の人体への影響

放射線によるがん・白内障の増加

放射線量 (mSv)	がん・白内障の増加率 (%)
0	0
100	0.1
200	0.2
300	0.3
400	0.4

日常生活と放射線

放射線は私たちの日常生活に欠かせない存在です。人工放射線と自然放射線は、私たちの生活に様々な影響を与えています。

食品の放射性物質に関する規制

食品の放射性物質に関する規制

食品の出荷制限

食品に含まれる放射性物質については、平成23年3月の東京電力福島第一原子力発電所の事故を受けて、食品の安全性を確保する観点から、食品中の放射性物質の基準値が設定され、これを超える食品は、出荷することができなくなりました。

新しい基準値の概要

農産物や水産物、飲料水など、みだりに口にできる食品について、国は様々な安全基準を定めています。食品中の放射性物質については、平成23年3月から「年間線量5ミリシーベルト以下」に基づく緊急規制値が適用されてきましたが、平成24年4月1日から、より厳格な安全基準・安心を確保するため、「年間1ミリシーベルト以下」に基づく、より厳しい新たな基準値が適用されています。

すべての年齢の人に配慮された基準値

新たな基準値では、すべての人が摂取し代替がきかず、摂取量が多い「飲料水」、乳児だけが食べる「乳児用食品」、子どもの摂取量が多い「牛乳」など、特に配慮が必要と考えられる食品については区分を設け、それ以外の食品は、個人の食習慣の違い（飲食する食品の種類の影響を最小限にするため）、一括して「一般食品」として、4つの区分で基準値が設定されています。

区分	放射性セシウム/放射性ヨウ素 (Bq/kg)	放射性カリウム (Bq/kg)
乳児用食品	10	10
牛乳	10	10
飲料水	10	10
一般食品	100	100

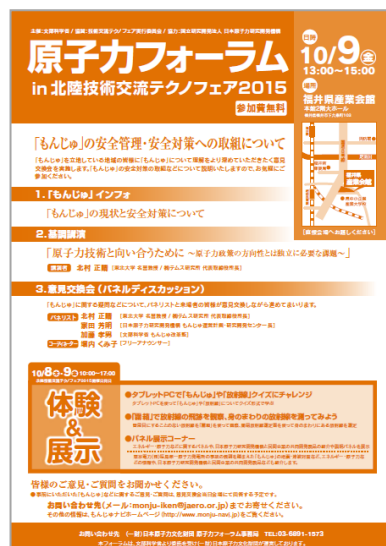
年間1ミリシーベルト/年

年間1ミリシーベルト/年の放射線量を基準として、食品中の放射性物質の健康リスクを評価し、適切な基準値を設定しています。

区分	年間1ミリシーベルト/年
乳児用食品	100
牛乳	100
飲料水	100
一般食品	100



※A3 サイズ 放射線パネル



開催チラシ (A4)・ポスター (A2)

(ハ) 周知 (事前・事後)

以下の手法を用いて、周知を行った。

- ・開催チラシ、ポスター制作・配布 (福井市)
- ・新聞折込 (チラシ)

<福井市 97, 175 世帯>

媒体：福井新聞 78, 425 購読世帯、日刊県民福井 18, 750 購読世帯

- ・地元広報誌への掲載

冊子「夢レディオ」(発行部数：10, 000 部、設置エリア：丹南地域中心の県内全域)

- ・ホームページにて開催告知、事前に疑問や意見等を募集し、意見交換会当日専門家等より解説・説明をした (ホームページについては、テレビ広報事業と連携した)
- ・「もんじゅ」リーフレット微修正および配布、設置

意見交換会、展示ブース等において「もんじゅ」リーフレット (制作部数：600 部) を配布、配置した。

(3) 業務実施に関する評価

① 広聴・広報効果を把握するためのアンケート調査

広聴・広報効果を把握するために意見交換会、展示ブース等においてアンケート調査を実施した。評価指標として、「基礎的な理解促進」「理解促進の実施・手法」「理解促進実施の持続」「高度な知識への興味・関心の波及」を掲げ、肯定的回答の割合から効果を測定した。

<アンケート回収結果>

- ・事前アンケート調査 (福井市、敦賀市) アンケート回収数合計 769 枚

- ・意見交換会および展示ブース「原子力フォーラム in 北陸技術交流テクノフェア 2015」

(平成 27 年 10 月 8 日 (木) ~9 日 (金))

アンケート回収数 意見交換会 : 33 枚 展示ブース 98 枚 (2 日間)

<評価指標の達成状況>

- ・原子力や「もんじゅ」等の基礎的な知識の理解促進

(アンケート結果目標 肯定的回答の割合 : 意見交換会 60%以上)

アンケート結果における肯定的回答の割合 : 意見交換会 54.6~63.6%

+定性的評価+補足資料より

評価

展示ブース 85.7%

(目標値に至らなかった要因)

アンケート設問の「本日フォーラムに参加され、「もんじゅ」・原子力について理解が深まったと思いますか?」との問いに「深まった・ある程度深まった」と肯定的回答した人が 54.6%と低い結果となった。

要因としては、報道において、「もんじゅに報告命令」という見出しにて原子力規制委員会より原子力機構に対し、「機器の点検内容や安全重要度分類が多数間違った問題について事実関係を報告するよう命令をだした」との報道された直後の意見交換会となった結果、質疑応答の際、慎重派による挙手が大半をしめ、質問ではなく意見を述べるだけで、有意義な意見交換とはならなかったことが考えられる。

このことは、参加者からも、慎重派の意見ばかりで、もんじゅ本来の意義や安全性等の議論を聞いたかったという消化不良のアンケート回答もあったことから伺える。

- ・原子力や「もんじゅ」等に関する知識の理解促進の実施・手法

(アンケート結果目標 肯定的回答の割合 : 意見交換会 60%以上)

アンケート結果における肯定的回答の割合 : 意見交換会 48.5%~78.7%

展示ブース 85.7%~93.9%

(評価委員より)

「原子力や「もんじゅ」等の基礎的な知識の理解促進」や「知識の理解促進の実施・手法」について、今後の進行方法や質疑応答等についてやり方を考える必要がある。別の方法として、質問用紙を予め配布し、始まる前の休憩時に質問を記入してもらい、パネルディスカッション前に集め、司会より「順に回答していく」と説明すると一通り答えられるようになるため、アンケート回答の満足度が少し上がる可能性がある。事前に質問をとる等進行方法(司会進行含め)と質疑応答等の手法について再検討が必要であると考えられる。

- ・原子力や「もんじゅ」等に関する知識の理解促進実施の持続
 (アンケート結果目標 肯定的回答の割合：意見交換会 60%以上)
 アンケート結果における肯定的回答の割合：意見交換会 78.7%
 展示ブース 94.9%
 +自由記述より評価

(評価委員より)

・組織改革はどのように進んでいるか、もんじゅの研究目的、もんじゅの必要性、安全対策、地域からの信頼性向上への取組、研究成果について知りたいという方が多く見受けられ、参加意欲が高いことが伺える結果となった。また、「もんじゅ」改革に対する意見、情報提供の必要性、研究成果をPRすべき等と言及する方が多く見受けられ、参加意欲が高いことが伺える結果となったと評価。(意見交換会アンケート結果より)

・放射線と放射性物質について詳しく知りたい、原子力から出る放射線の量や影響、人間は自然放射線を日常浴びていることをもっとPRすべき、今後の測定技術が発展するか等「もんじゅ」以外の原子力や放射線について等の関心が高いことも伺える結果となった。(展示ブースアンケート結果より)

- ・原子力や「もんじゅ」等に関するより高度な知識への興味・関心の波及
 (アンケート結果目標 肯定的回答の割合：意見交換会 60%以上)
 アンケート結果における肯定的回答の割合：意見交換会 69.7%~82.8%
 展示ブース 85.7~90.8%

②アンケート調査結果を踏まえ、「地域住民の意識を踏まえた双方向の意見交換会の実施(広聴・広報事業)」仕様書別添の「業務評価について」に従い、原子力、コミュニケーション、財政・運営の外部有識者3名や他の業務「地元地域の新聞を通じた情報提供事業(新聞広報)」、「地元TV放送やWebを通じた情報提供事業(テレビ広報)」の受託者等で構成する委員会を設置して、3事業の業務の実施内容や対象者の意見等について検討や検証を行い、本業務による理解促進に係る効果や今後の課題等の評価・意見を行った。

〔業務評価委員会 詳細〕(敬称略)

【委員】

- 委員長：木村 浩 NPO法人パブリック・アウトリーチ研究企画部 研究統括
- 委員：新澤 武志 新英コンサルティング(株) 代表取締役
- 委員：谷川有希乃 フリーアナウンサー

【開催実績】2回

中間評価委員会：平成27年9月 1日(火) 文部科学省内会議室

事後評価委員会：平成 28 年 3 月 17 日（木）文部科学省内会議室

【評価結果】 A

(二) 理解促進について

意見交換会および展示ブースの開催等において、原子力や「もんじゅ」等に関するアンケート等の結果として肯定的回答が 54.6%~85.7%であるが、総合的に理解促進効果の発現が見られた。しかし、今後の広報のあり方として、意見交換会の進行方法や質疑応答の方法について再考する必要がある。

(ホ) 実施形態、実施手法について（広報のあり方等）※評価委員会での委員の意見含む

- ・意見交換会において、一方的な慎重派による意見だけにならず、地域住民の有意義な声を拾えるよう、また、もんじゅ本来の意義や安全性等の議論を情報提供できるディスカッションの手法を再考する必要がある。
- ・意見交換会において、時事的な動向を見つつ、特定の対象者に限定することなく地域住民各層に公平に参加機会が得られることに配慮した開催の工夫が必要。
- ・アンケート結果からも、地域住民は意見交換会に関心を持っている人が多く見受けられ、情報発信を必要としているため、興味・関心の度合いに合わせ、色々な立場の方々に向けてかつ、地域の社会情勢も踏まえながら意見交換の手法を考える余地がある。また、参加者だけではなく広く地域住民へどう情報発信していくかが今後の課題である。草の根的ではあるが、地域住民とのコミュニケーション、地域に密着した形で地道な広報活動がより必要だと実感した。そうすることで信頼回復の一助となると考える。

6. 委託業務実施期間

平成 27 年 6 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日

II. 業務実施時期

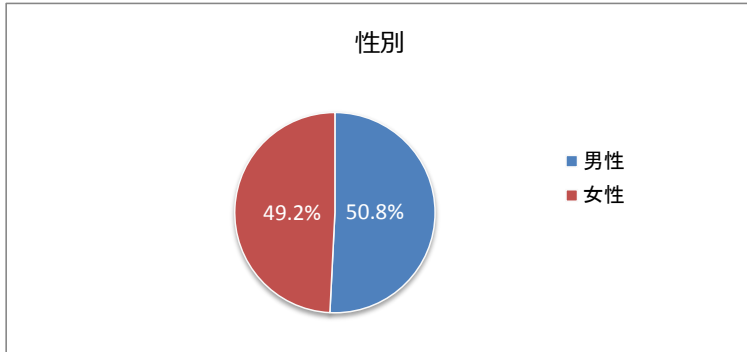
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1) アンケート調査										
・アンケートの実施	● 内容作成	● 集計結果 提出								
(2) 意見交換会／展示ブース設置										
・イベントタイアップ型（1回）		← 開催準備		● 開催周知	● テクノフェア (福井市)	もんじゅ「動告」 発出				
・敦賀市にて開催（単独）（1回）				● 開催準備			実施中止（契約変更手続き）			
・大学との協同開催（1回）			← 大学との調整準備							
(3) 業務実施に関する評価										
・業務評価委員会		● 委員決定		● 中間			→ アンケート実施・分析			● 事後

＜全体集計＞

アンケート回収数：769枚

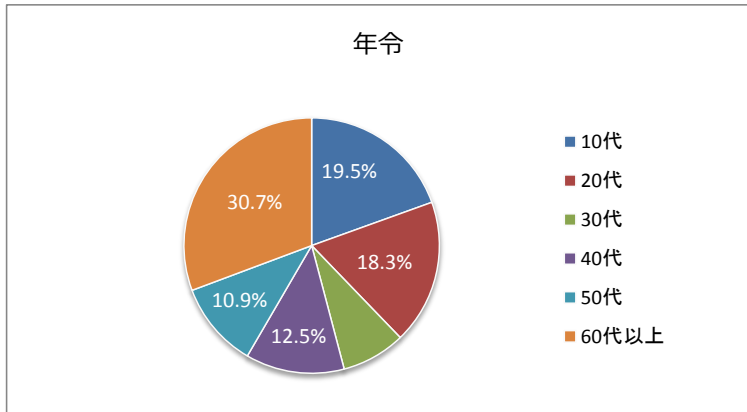
F1. 性別

No.	カテゴリー名	人数	%
1	男性	391	50.8%
2	女性	378	49.2%
	無回答	0	0.0%
	全体	769	100.0%



F2. 年齢

No.	カテゴリー名	人数	%
1	10代	150	19.5%
2	20代	141	18.3%
3	30代	62	8.1%
4	40代	96	12.5%
5	50代	84	10.9%
6	60代以上	236	30.7%
	無回答	0	0.0%
	全体	769	100.0%



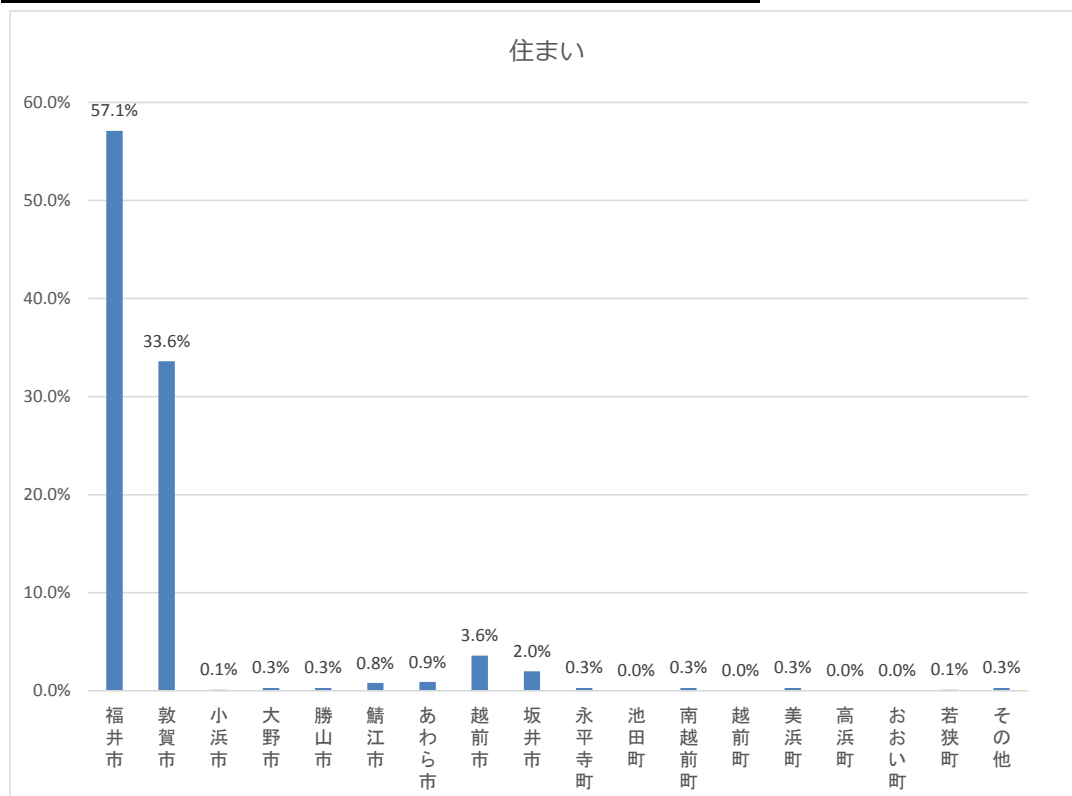
地域住民の意識を踏まえた双方向の意見交換会の実施（広聴・広報事業）アンケート集計結果（総合）

＜全体集計＞

アンケート回収数：769枚

F3. 地域（住まい）

No.	カテゴリー名	人数	%
1	福井市	441	57.1%
2	敦賀市	258	33.6%
3	小浜市	1	0.1%
4	大野市	2	0.3%
5	勝山市	2	0.3%
6	鯖江市	6	0.8%
7	あわら市	7	0.9%
8	越前市	28	3.6%
9	坂井市	15	2.0%
10	永平寺町	2	0.3%
11	池田町	0	0.0%
12	南越前町	2	0.3%
13	越前町	0	0.0%
14	美浜町	2	0.3%
15	高浜町	0	0.0%
16	おおい町	0	0.0%
17	若狭町	1	0.1%
18	その他	2	0.3%
	無回答	0	0.0%
	全体	769	100.0%

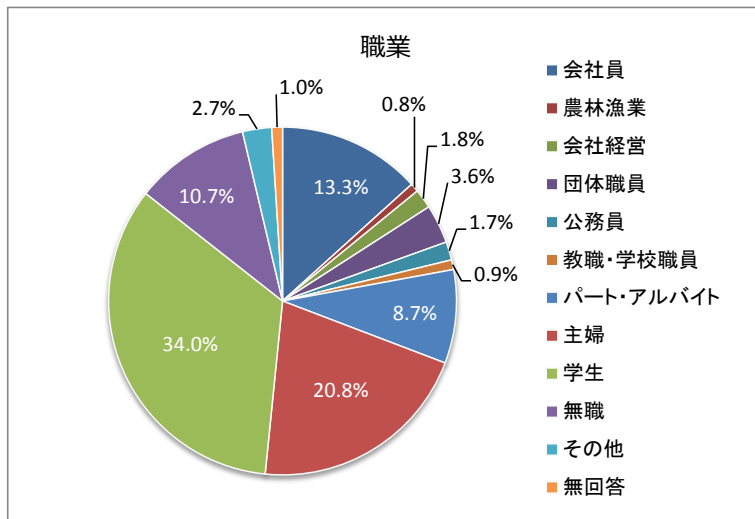


＜全体集計＞

アンケート回収数：769枚

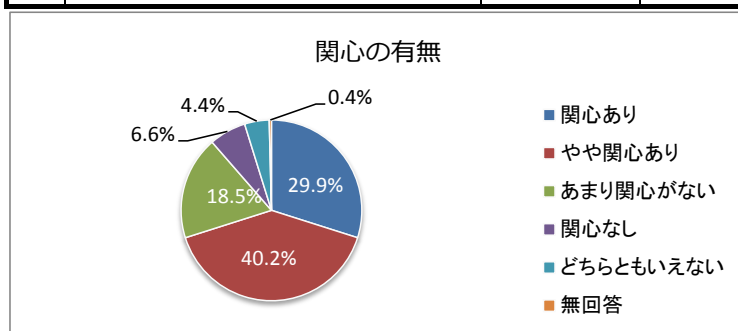
F4. 職業

No.	カテゴリー名	人数	%
1	会社員	102	13.3%
2	農林漁業	6	0.8%
3	会社経営	14	1.8%
4	団体職員	28	3.6%
5	公務員	13	1.7%
6	教職・学校職員	7	0.9%
7	パート・アルバイト	67	8.7%
8	主婦	160	20.8%
9	学生	261	34.0%
10	無職	82	10.7%
11	その他	21	2.7%
	無回答	8	1.0%
	全体	769	100.0%



Q1. 関心の有無

No.	カテゴリー名	人数	%
1	関心あり	230	29.9%
2	やや関心あり	309	40.2%
3	あまり関心がない	142	18.5%
4	関心なし	51	6.6%
5	どちらともいえない	34	4.4%
	無回答	3	0.4%
	全体	769	100.0%

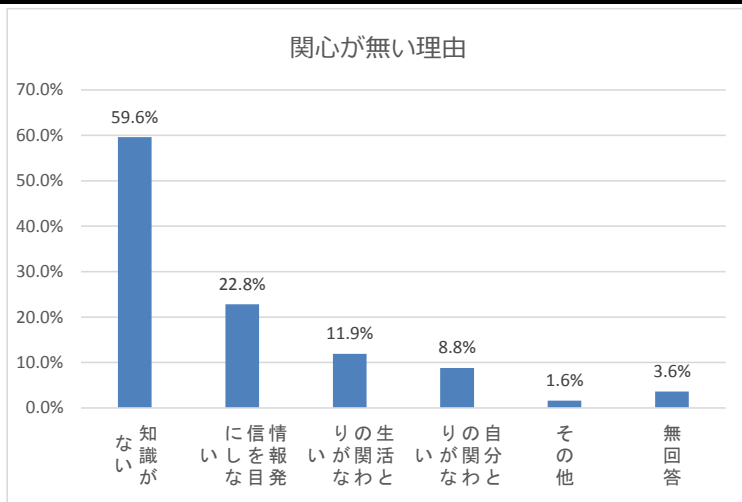


地域住民の意識を踏まえた双方向の意見交換会の実施（広聴・広報事業）アンケート集計結果（総合）
 <全体集計> アンケート回収数：769枚

Q2. 関心がない理由 ※複数回答

No.	カテゴリー名	人数	%
1	知識がない	115	59.6%
2	情報発信を目にしない	44	22.8%
3	生活との関わりがない	23	11.9%
4	自分との関わりがない	17	8.8%
5	その他	3	1.6%
	無回答	7	3.6%
	全体	193	100.0%

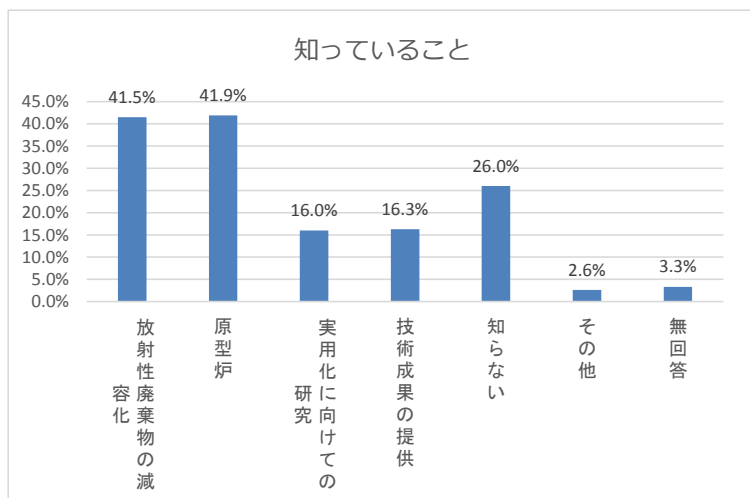
累計	(n)	累計 (%)
	209	108.3%



Q3. 「もんじゅ」について知っていること ※複数回答

No.	カテゴリー名	人数	%
1	放射性廃棄物の減容化	319	41.5%
2	原型炉	322	41.9%
3	実用化に向けての研究	123	16.0%
4	技術成果の提供	125	16.3%
5	知らない	200	26.0%
6	その他	20	2.6%
	無回答	25	3.3%
	全体	769	100.0%

累計	(n)	累計 (%)
	1134	147.5%

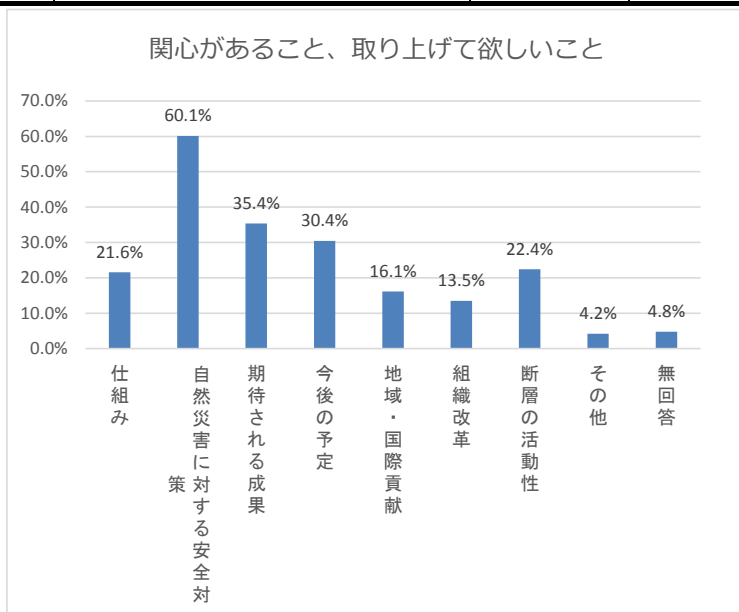


Q4. 「もんじゅ」について関心がある、意見交換会時に取り上げて欲しいこと

No.	カテゴリー名	人数	%
1	仕組み	166	21.6%
2	自然災害に対する安全対策	462	60.1%
3	期待される成果	272	35.4%
4	今後の予定	234	30.4%
5	地域・国際貢献	124	16.1%
6	組織改革	104	13.5%
7	断層の活動性	172	22.4%
8	その他	32	4.2%
	無回答	37	4.8%
	全体	769	100.0%

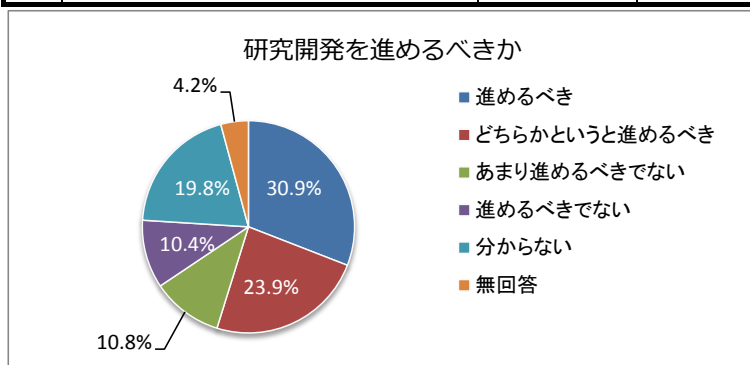
※複数回答

累計 (n)	累計 (%)
1603	208.5%



Q5. 「もんじゅ」の研究開発を積極的に進めていくべきだと思いますか？

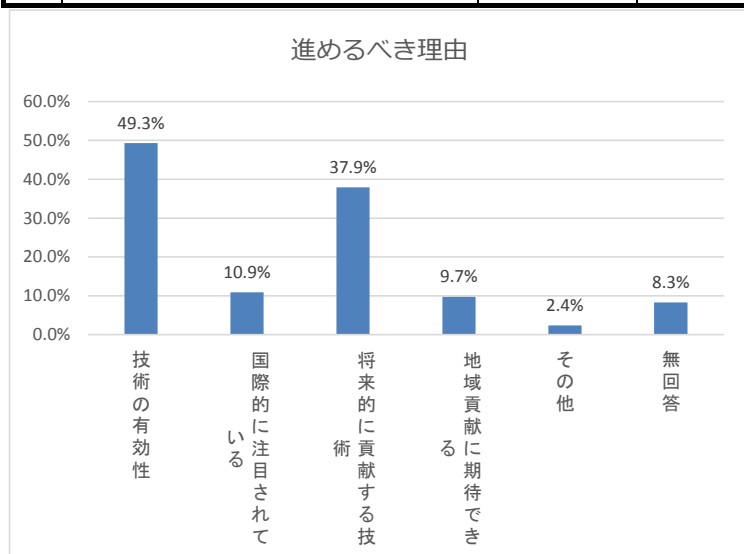
No.	カテゴリー名	人数	%
1	進めるべき	238	30.9%
2	どちらかというに進めるべき	184	23.9%
3	あまり進めるべきでない	83	10.8%
4	進めるべきでない	80	10.4%
5	分からない	152	19.8%
	無回答	32	4.2%
	全体	769	100.0%



Q6. 進めるべきと回答した方の理由 ※複数回答

No.	カテゴリー名	人数	%
1	技術の有効性	208	49.3%
2	国際的に注目されている	46	10.9%
3	将来的に貢献する技術	160	37.9%
4	地域貢献に期待できる	41	9.7%
5	その他	10	2.4%
	無回答	35	8.3%
	理由なし（Q5で1と2以外の回答者）	347	
	全体	422	100.0%

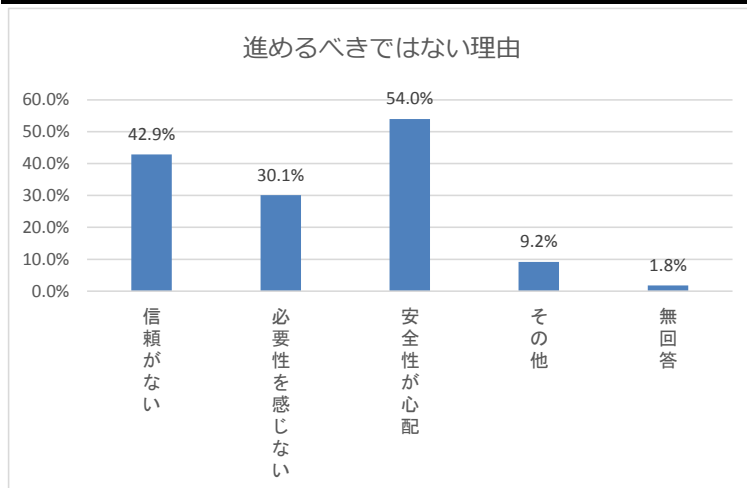
累計 (n)	累計 (%)
500	118.5%



Q7. 進めるべきではない理由 ※複数回答

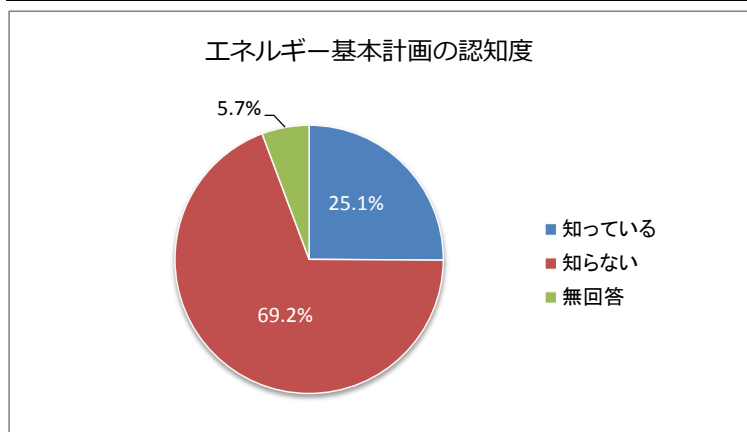
No.	カテゴリー名	人数	%
1	信頼がない	70	42.9%
2	必要性を感じない	49	30.1%
3	安全性が心配	88	54.0%
4	その他	15	9.2%
	無回答	3	1.8%
	理由なし（Q5で3と4以外の回答者）	606	
	全体	163	100.0%

累計	(n)	累計 (%)
	225	138.0%



Q8. エネルギー基本計画をご存知ですか？

No.	カテゴリー名	人数	%
1	知っている	193	25.1%
2	知らない	532	69.2%
	無回答	44	5.7%
	全体	769	100.0%



<全体集計>

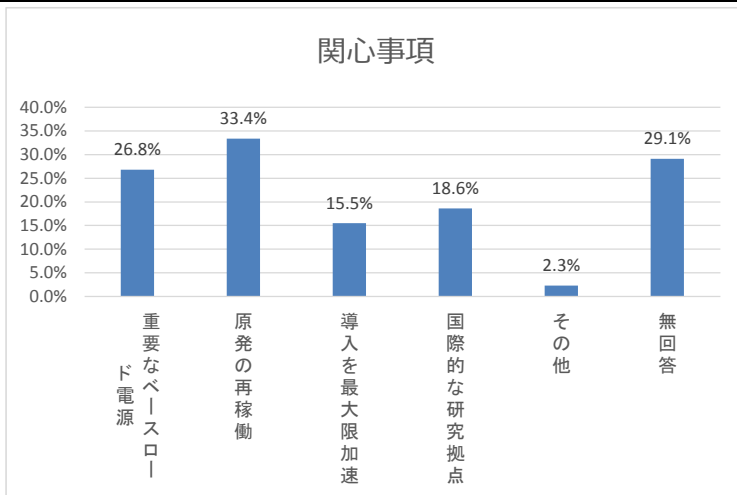
アンケート回収数：769枚

Q9. エネルギー基本計画の内容で関心がある事項とは？

※複数回答

No.	カテゴリー名	人数	%
1	重要なベースロード電源	206	26.8%
2	原発の再稼働	257	33.4%
3	導入を最大限加速	119	15.5%
4	国際的な研究拠点	143	18.6%
5	その他	18	2.3%
	無回答	224	29.1%
	全体	769	100.0%

累計	(n)	累計	(%)
	967		125.7%

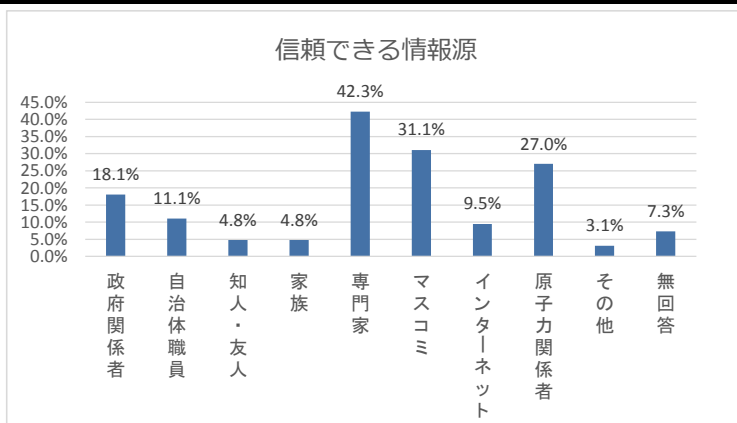


Q10. 信頼できる情報源は？

※複数回答

No.	カテゴリー名	人数	%
1	政府関係者	139	18.1%
2	自治体職員	85	11.1%
3	知人・友人	37	4.8%
4	家族	37	4.8%
5	専門家	325	42.3%
6	マスコミ	239	31.1%
7	インターネット	73	9.5%
8	原子力関係者	208	27.0%
9	その他	24	3.1%
	無回答	56	7.3%
	全体	769	100.0%

累計	(n)	累計	(%)
	1223		159.0%



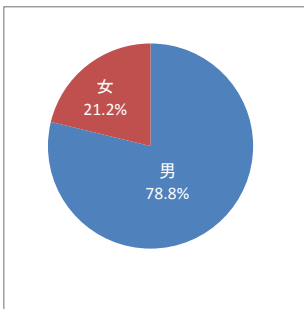
原子カフォーラムin北陸技術交流テクノフェア2015 アンケート結果

日時 2015年10月9日(金)13:00~15:00
 場所 福井県産業会館 2階大ホール
 参加者数 約 80 人
 アンケート回収枚数 33 枚

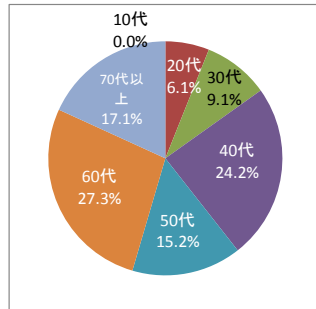
	Q.1性別		Q.2年齢							Q.3職業								Q.4フォーラムを知ったきっかけ			Q.5「もんじゅ」インフォ説明					Q.6基調講演と意見交換会の内容						Q.7意見交換会は満足だったか							
	男	女	無回答	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答	商工自	会社員	農林水	公務員	学生	無職	その他	無回答	広告	当日会場で	その他	無回答	よく理解	ある程度	あまり	全く	その他	無回答	大変興味	興味	あまり	全く	その他	無回答	はい	いいえ	無回答	
33	26	7	0	0	2	3	8	5	9	6	0	0	15	0	3	1	8	5	1	9	3	18	2	1	8	13	6	1	1	4	8	15	6	0	0	4	16	12	5

Q.8「もんじゅ」原子力についての理解					Q.9 理解を深めるのに役立つか					Q.10「もんじゅ」や原子力について知りたいか					Q.12 今後も参加したか							
深まった	ある程度	あまり	深まらなかった	無回答	非常に	ある程度	あまり	役に立たない	その他	無回答	もっと知りたい	知りたい	あまり	まったく	その他	無回答	参加したい	都合があれば	参加したくない	分からない	無回答	
9	9	10	1	0	4	5	18	4	1	1	4	10	16	1	0	1	5	8	18	1	2	4

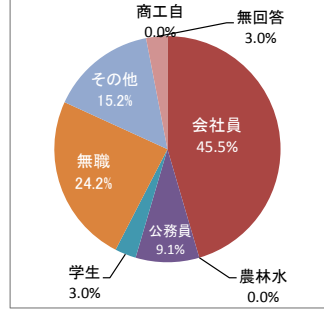
Q.1性別



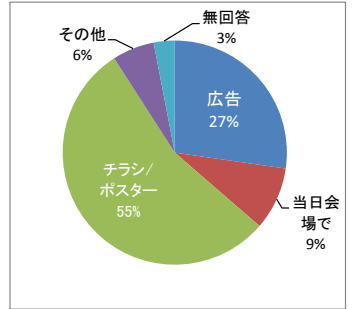
Q.2年齢



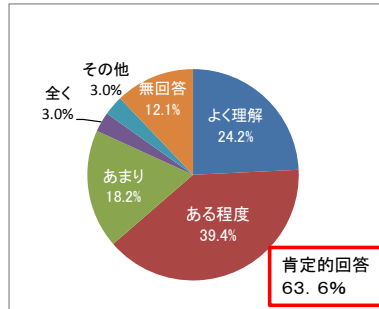
Q.3職業



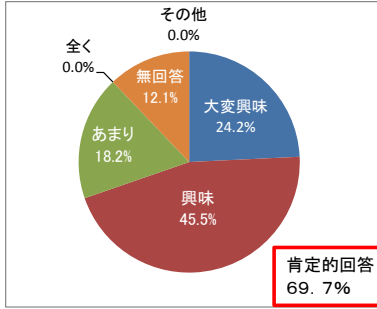
Q.4フォーラムを知ったきっかけ



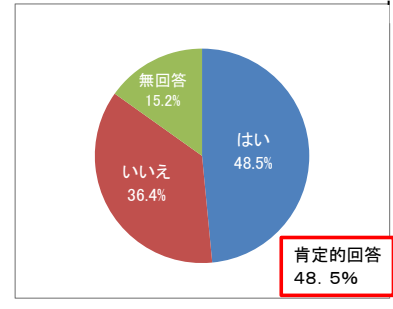
Q.5「もんじゅ」インフォ説明



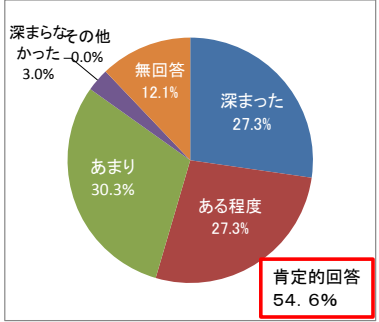
Q.6基調講演と意見交換会の内容



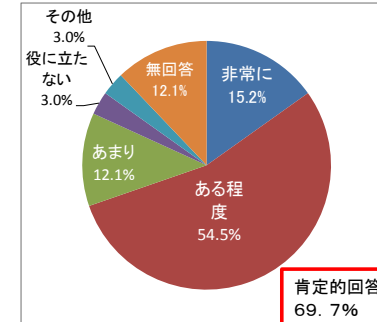
Q7意見交換会は適切だったか



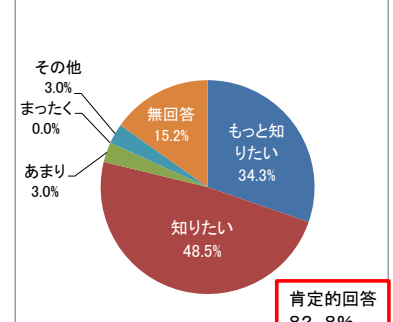
Q.8「もんじゅ」原子力についての理解



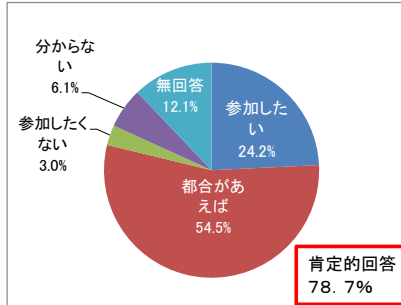
Q9.理解を深めるのに役立つか



Q10.「もんじゅ」や原子力について知りたいか



Q12今後もこのようなフォーラムに参加してみたいか



Q3職業(その他内訳)

教職。
建設会社非常勤嘱託。

Q4フォーラムを知ったきっかけ(その他内訳)

仕事上の関係。

Q5本日の「もんじゅ」インフォの説明について、理解できましたか？回答理由

関係がありそうでないような基調講演。
早口でききとりにくい部分があった。2名
説明が全般的であった。一般の人に理解は難しいと思った。
具体的に稼働していない中、マンネリ化しない活性化の方法など聞きたかった。
具体的でないため。
細かな所まで資料化されているから。

Q6本日の基調講演と意見交換会の内容について、どのように感じられましたか？回答理由

日々と違った考え方、もんじゅ+α問題の再認識ができた。
当たり前のことしか言っていなかったため。
北村先生の本音の部分等も聞けたため。
リスクマネジメントについて、もっと詳しく聞きたかった。
信頼の構築をこれからどのようにしていくのか興味があるから。
北村先生を入れた討論は小規模でも継続していくことで理解は少しずつでも深まると感じた。
確かに脱も卒も続けるも管理が必要、安全管理が常に100%の意識の継続の方法は？
新聞等の内容が具体化された議論。
北村さんの話は良かった。

Q7本日の意見交換会は適切に行われていたと思いますか？「いいえ」とご回答した方へその理由

テーマを決めず幅広く意見の取入れをメインにしてもよかったのでは…

どうせするのなら2時間位お願いしたい。

女性の意見も少し聞いてほしい。

きつと、今日のすめ方、内容には、今県民は望んでではなく反感のもとだ。

反原発団体の文句ばかりで適切とは言えない。

自由形式の意見交換会がのぞまれると思う。

反対派の質問に終始された。

意見がしぼり込まれすぎ。

広い範囲で。

適切かどうかは分からないが、ある程度本音を聞いたところには①「はい」であると判断します。

Q9本日のフォーラムは、「もんじゅ」・原子力についての理解が深まるのに役立つと思いますか？

意見交換は立場の違う方の意見を聞くことで理解が深まった。

Q10「もんじゅ」や原子力について知りたいか（その他内訳）

県民が知りたい内容でない。

Q11今後「もんじゅ」・原子力についてどのような情報を知りたいですか？

組織について

組織全体の意識。

組織改革はどのように進んでいるのか。

もんじゅや増殖炉について

もんじゅの研究目的。

資源のない日本では必要と思う。

世界での高速増殖炉の動き。

実際に増殖炉として機能している(いた)のか知りたい。つまり成果は得られているのか？

再稼働への見直し。

耐震補強など現状+法との関係(進捗ぐあい)を逐次知りたい。

議論や議論の進め方について

目的、意義不明。

もっと本質的に掘り下げた議論が必要だと思う。

ステークホルダー(国民全体を含めて)との対話に関して開催回数、参加人員、主な意見、JAEAの考え方など要点を知りたい。

安全性について

リスクマネジメント。

安全性。

□つ世の中に役に立っているのですかね…災害はある日突然災難がやって来ます。福井県だけの問題ではありません。他県も子、孫にまでずっと悪が続くことを忘れていてはいませんか！

処分について

使用済みの始末がむずかしい。狭い国の為に色々心配が多い。

廃棄物最終処分問題。

情報公開について

今回の意見交換でも話が出たように「見せる」ということを積極的に取り組んでほしい。

「もんじゅ」内の人々の行動考え方が一般人には見えてこないで、まだ、だめな所があったというあきれしかみえてこない。

地域協力について

地域との信頼性向上への取り組み、成果。

Q13その他、お気付きの点がございましたら、ご自由にお書きください

もんじゅの稼働や原発について

今回もんじゅの現状を知ることができた。

私は「もんじゅ」の稼働に期待をしている者です。しかし今の状況では大変心配しています。「しっかりやっている」「しっかりやっています」では国民は信用しません。社員等もっと緊張感をもって取り組んでほしい。

もんじゅには期待しているので安全を確保したうえで、はやく稼働していただきたい。国民に十分、理解してもらえると良いですね。頑張ってください。

原発停止に伴う損害提訴をすべし。(国民の電気料アップ分を反対派へ提訴すべし)

反対派は一部メディア、政治グループのみ。

議論の仕方について

座談会が成立していない。

進行役の知識が足りない。

講演よりも意見交換に重点があると良いのかもしれない。

質問時間を1人あたり2分ぐらいに。

継続して「ゼミナール」として実施してほしい。

規制委員会対今フォーラムとの公開討論を国民の前でやるべき。

安全性やその周知について

原子力空母の安全管理、国内原発の安全管理の相違点？

大地震ですべてのループでNa配管が破断した場合、自然冷却は不可能ではないか。家田さんは漏えいした場合としか答えない。(漏えい程度しか対応できないということか。)漏えいよりひどい状態でNa噴出すれば大火災となる。お手上げになるのではないか。

安全性に対して災害に弱い事が分かり毎年災害時にくり返し国の不安につながり、保障も中々大変となっている。反対している人は将来に対しての心配から出ている。

もんじゅの現状や規制委の対応などの説明は分かりやすかった。しかし、北村先生の講演にあったように社会、市民、国民の考え方、意識をどう受け止めているか、この点が十分明確になっておらず、信頼の再構築に有効とは言えないと感じた。どれほど技術的に安全で、今後規制委がお墨付きを与えても、人々と離れた所で物事が進んでしまえば信頼の再構築には至らない(逆効果のおそれもある)と感じた。

安全について過去のイメージ→現在のイメージをすべての人へ理解してもらう必要があると感じた。

地震耐震→認められまい→どう市民、規制庁からのOKを得るのか？

メディアを使う。

安全性を国民の末端まで周知させるなんて無理、ムダ、不要。政党、政治問題になってしまった。

国や規制委員会の対応について

国も規制委員会も互いに責任逃れ→税金のムダ使い。

文科省の人の言っていた番犬のような安全委員とのやりとりで踏ん切りがつけられるのはいつか？こうやっているうちに人間の精神的なものの技術において進歩や人材育成につながっていないことが動かすことによって改善できるのではないか、いつまでもこのままではいけない。

☑️ニュアルの意志統一のためにやってきたことを改善するように自分の言葉でというように、広報とやりとりするうちに文章にも言葉にも改善がみられたのに再稼働が失敗に終わったあたりから、一般人には、もうわからなくなった。もんじゅと安全委員が小競り合いやっているとしたか、それが一般人にはイラつくと思う。まわりは、わからないから。

処分について

10イの処分が一番問題です。国も役人も偉い方々はどうでも良いのではないのでしょうか。原発すべての処理をどうするのか、私達より子、孫の子供達の将来にとっても不安です。税金の無駄使いだ。世の中の役にたってこそ価値があるのであって、月・日が何年たっても運用が開始されないのなら、さっさと廃止してほしいものです。総理が先日私が、国が責任を取ります、と言われましたが…本当に出来るのでしょうか？ね。早く決めて、再開にしろ、廃止にしろ動き出してほしいものです。

組織について

田向社員ばかり集めて、体制を強化できるのか、不安なところがある。

強いリーダーを出すべし。

展示ブースアンケート結果

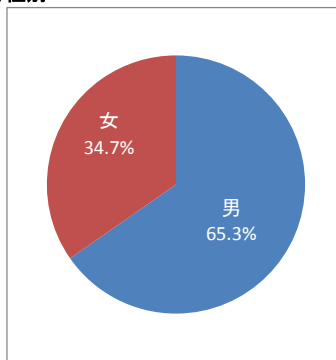
原子カフォーラムin北陸技術交流テクノフェア2015
 日時 平成27年10月8日(木)～9日(金)10:00～17:00
 場所 福井県産業会館 イベントホール
 対象 地元一般住民
 参加者数 約 370 名
 アンケート回収枚数 98 枚

合計	Q.1:性別			Q.2:年齢							Q.3:職業						Q.4知ったきっかけ						
	男	女	無回答	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答	商工自	会社員	農林水	公務員	学生	無職	その他	無回答	広告	その他	無回答	
98	64	34	0	36	16	10	9	8	12	7	0	7	28	1	1	45	9	5	2	35	51	11	1

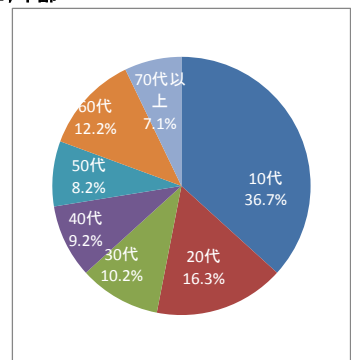
合計	Q.5:展示パネルを見て						Q.7もんじゅや放射線について理解が深まったか						Q.8原子力や放射線について興味をもったか						Q.10原子力機構の「成果展開業」等に関する興味					
	とてもわかりやすい	ある程度	あまり	わかりやすい	その他	無回答	深まった	ある程度	あまり	深まらない	その他	無回答	もっと知りたい	知りたい	あまり知りたくない	全く知りたくない	その他	無回答	大変	興味をもった	あまり	まったく	その他	無回答
64	28	2	1	1	2	30	54	8	0	0	6	15	74	2	0	2	5	17	67	7	0	0	7	

Q.11情報発信は必要か					
必要	どちらかといえば必要	不要	わからない	無回答	
57	36	0	0	0	5

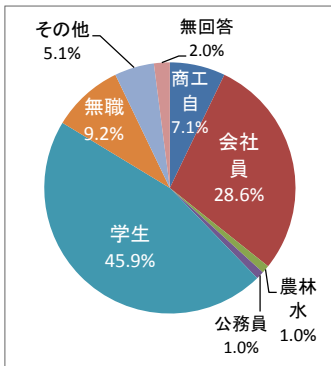
Q.1:性別



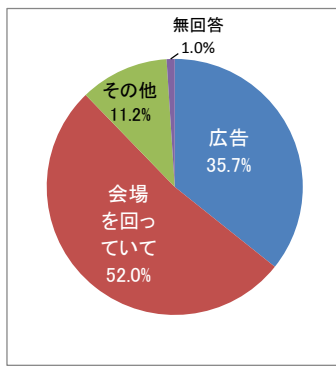
Q.2:年齢



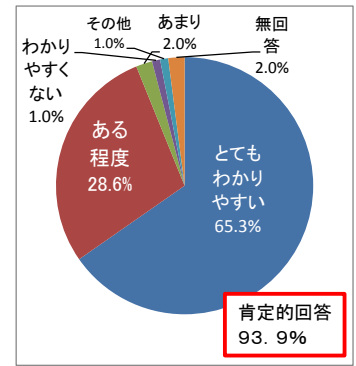
Q.3:職業



Q.4:ブースを知ったきっかけは？



Q.5:展示パネルを見て



展示ブースアンケート結果

原子カフォーラムin北陸技術交流テクノフェア2015

日時 平成27年10月8日(木)～9日(金)10:00～17:00

場所 福井県産業会館 イベントホール

対象 地元一般住民

参加者数 約 370 名

アンケート回収枚数 98 枚

Q3; 職業(その他内訳)

- ・ 研究員(2)
- ・ 造形家
- ・ 自営

Q4; ブースを知ったきっかけ(その他内訳)

- ・ 仕事
- ・ 法律事務所の先生
- ・ 出展
- ・ 学校(4)

Q.5; 展示パネルを見て(その他内訳)

- ・ つまらない

Q.6; 関心をもたれた出展物(展示物)がありましたら、教えてください。

- ・ 放射線(16)
- ・ 和紙(10)
- ・ LED(2)
- ・ 霧箱(2)
- ・ メガネ(2)
- ・ コップ
- ・ 青色レンズ
- ・ 生分解性プラスチック
- ・ もんじゅ
- ・ マントル
- ・ α・βの測定器
- ・ 全部
- ・ コケ
- ・ たくさんのことをもっと知りたい

Q.9; 今後「原子力・放射線」についてどのような情報を知りたいですか？

放射線や原子力について

- ・ 放射線の今後の使い方、など
- ・ 放射線と放射性物質について詳しく知りたいです。
- ・ 放射能を利用したもの。
- ・ 今後の放射線を用いた新技術
- ・ 今の原子力や放射線に対しての対処法、技術
- ・ 原子力が主にどのようにつかわれるか
- ・ 人間は自然放射線を日常あびていることをもっとPRすべきだと思います。
- ・ これから放射線がどうやって防ぐのか
- ・ これからの放射能との生き方。
- ・ 身のまわりの放射線について
- ・ いま放射線の技術はすごく進んでいると思います。
- ・ 今後の測定技術が発展するか
- ・ 如何にわれわれの生活に生かされているかについてさらに詳しく知りたい
- ・ 原子力から出る放射線の量や影響

人体への影響

- ・ 体にどのような影響があるか(2)
- ・ 人における影響力
- ・ 健康被害など
- ・ 被ばく
- ・ がんの増加など

発電所の稼働や地域への影響

- ・ 原子力発電所が稼働した時の鯖江市への今後の影響。
- ・ 敦賀の人への影響。
- ・ 今後稼働するか。
- ・ 本当に動くのでしょうか？ね。

安全性

- ・ 安全性について。(3)
- ・ 民間用の時の安全性。
- ・ 安全対策。

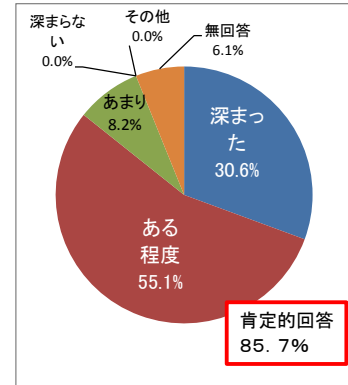
その他

- ・ どんな成果展開事業が展開できるか興味深い。
- ・ 廃棄物の処理方法を理論的に対応してほしい。
- ・ いろいろ知りたい。
- ・ 全部。
- ・ 法律について。
- ・ どうすれば国民の理解が得られるのか？

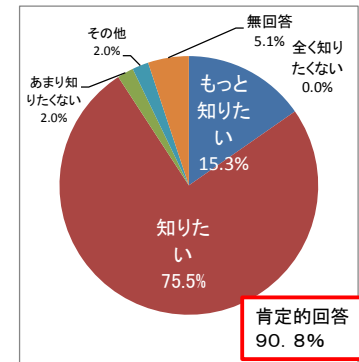
Q.12; お気づきの点

- ・ 丁寧な説明だった。

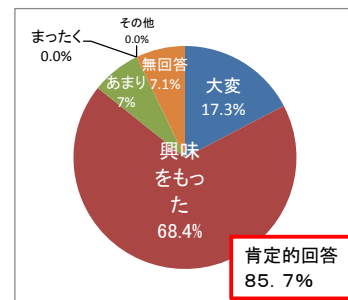
Q7「もんじゅ」や放射線の理解



Q.8; 原子力・放射線についての興味



Q10; 原子力機構の「成果展開」や「技術相談」



Q11; 情報発信の必要性

